

教員が時事問題を解説

Sophia In Focus
新動画シリーズが公開

ニュースを読み解くポイントを解説

本学の教員が時事問題を解説する動画シリーズ「Sophia In Focus」の公開が大学公式YouTube

Tubeチャンネルで始まった。このシリーズでは、教員が自身の専門を踏まえてニュースを読み解くポイントを解説している。

第一弾となる今回は、国際情勢編として、5人の教員が登場。解説すべき項目については、報道

①「コロナ禍と国連SDGs達成に向けて」植木安弘教授（グローバル・スタディーズ研究科）

②「ミャンマー軍事クーデターと民主化の行方」根本敬教授（総合グローバル学部）

③「アフガニスタン人道危機」東大教授（グローバル教育センター）

④「米中『新冷戦時代』」略を振り返るとともに、

上智大学後援会では、例年5月に総会を開催し、予算・決算などを審議している。今年度は新型コロナウィルス感染症予防対策を講じ、3年ぶりに対面形式にて実施した。

上智大学後援会総会

学生生活を多方面から支援

2022年度の予算のうち、大学への寄付の総額は4498万7千円。寄付項目には対面授業が再開されたことを受けた100円朝食への支援も含まれており、家計急変者への奨学金給付、派遣交換留学生奨学金などとして活用される。

また、役員改選の承認に伴い、2021年度副会長であった濱口十志男

氏（理工学部4年次生保証人）が第45代会長に就任した。

総会に引き続き、外国語学部ロシア語学科長の湯浅剛教授による「ロシアを学ぶ理由：ウクライナでの惨状を眼前に」と題する講演会が対面とオンラインの併用形式で開催され、多くの参加者が熱心に耳を傾けた。また懇親会も催さ

れ、会員同士の交流に加え、学生課外活動団体によるパフォーマンス実演やソフィアくんとの記念撮影が行われた。

上智大学後援会は1973年に発足。会費は、大学の教育研究環境の改善のため、さまざまな用途に使用されている。

入会方法など後援会についてのお問い合わせは、総務局ソフィア連携室内・後援会事務局まで。電話（32388）3127

上智大学後援会WEBサイト
https://www.sophia.ac.jp/jpn/aboutsophia/support/index.html

教育の質の向上に活用

大学授業アンケートが刷新

学生の積極的な参加を呼びかけ



7月11日から29日まで、大学授業アンケートがファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会主催で実施される。個々の教員による授業改善や授業運営の点検に加えて、大学全体の教育の質の向上に役立てるねらいがある。

FD委員会では、上智の未来をつくるアンケートと位置付けて、在学生に回答協力をお願いしている。

これまで学部などごとに行われてきた授業アンケートを2022年度より統一し、共通の設問で年2回全学的に実施する。今年対象となる科目は春学期の学部開講科目（語学科グッドプラクティス」として表彰する。

アンケートに回答した学生に伝えるため、結果を公表することはもちろん、更なる学びの充実のためにデータの活用を積極的に進めていく。各学部などにおいて検討を行うほか、教職員に対しては9月の連続FD講演会にて集計分析結果の報告会を実施する予定だ。また、評価の高かった科目については「学生が選ぶ講科目（語学科グッドプラクティス）」として表彰する。

ソフィアの視点

上智大学は、平和を愛し、人間の尊厳を重んじるすべての人々とともにあります。私たちは戦争に断固反対し、ウクライナの人々に一日でも早く平和な日々が戻ることを願っています。こうした考

ムを実施し、そのアーカイブ動画をウェブサイトで公開しました。そして、7月からは、ウクライナの10名の大

ライナの皆さんに、安心して学び、過ごせる環境を提供することができればと考えています。10名の皆さんは、戦禍を経験し、多くの苦難を乗り越えて、母国から遠く離れた日本

なサポートが必要になると感じています。その際には、私たち一人ひとりが、自分ができることとやりたいことを考えるだけではなく、相手の事情や思いを理解し、ようと努力し続けるこ

戦禍を経験した留学生とともに

グローバル化推進担当副学長 森下哲朗



今回のウクライナからの学生受入は、現在のウクライナ状況に照らすと小さな一歩かもしれませんが、ウクライナからの学生受入を通じて上智大学を貫く教育精神である「他

者のために、他者とともに」を具現化すること、ソフィア・ファミリーがウクライナの人々とともにあることを表明し、上智大学が社会で果たすべき役割を果たしていきたいと思

戦禍や苦難に直面している国はウクライナだけではないことも忘れてはなりません。ウクライナだけではなく、他の国々の人々との関係でも、本学が何をすべきか、できるのかを考えていきたいと思

上智大学後援会では、本年度、上智大学後援会会長を務めさせていたことになりました。在学生のご父母・保証人の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

上智大学後援会には、イエズス会所属の先生方が給与から最低限の生活費を除いたすべて

本年度、上智大学後援会会長を務めさせていたことになりました。在学生のご父母・保証人の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

上智大学後援会では、本年度、上智大学後援会会長を務めさせていたことになりました。在学生のご父母・保証人の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

後援会会長 新任のご挨拶

上智大学後援会会長 濱口十志男



を大学に寄付しているという献身的な姿勢を、当時の在学生父母・保証人が知ったことがきっかけで1973年に発足した任意団体です。会員は在学生の父母・保証人で構成され、学生の学修環境を少しでも改善させ、充実した学生生活を送ってほしいという善意の会費で運営されています。

当会の主な活動は、父母・保証人目線によ

今年度は、昨年度に引き続きコロナ禍における支援として、WEB面接用ボックス「レキューブ」3台分のレンタル費用支援や、昨秋より再開された海

士との交流が可能です。学長・学部長と直接お話しができるなど、大学をより身近に感じることができるようになっています。また、様々な分野の講師による講演会を実施しており、遠方にお住まいの方々にもオンラインにて多数ご参加いただいています。

以上のように、上智大学後援会では大学に寄り添い、学生がより良い環境で学生生活を送ることができるようお手伝いをしています。多くの皆様のご理解・ご入会をお待ちしております。